

令和 2 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	52	学校名	茨城県立石岡第一高等学校				課程	全日制		学校長名		常井 安文					
副校長名	青砥 孝子		教頭名		宮本 慎一						事務（室）長名		箕輪 猛				
教職員数	教諭	58	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	6	実習教諭, 実習講師, 実習助手		8	事務職員	5	技術職員等	8	計	88
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計 クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普 通 科		98	142	125	112	102	133			325	387	18				
	園 芸 科		10	30	14	22	15	21			39	73	3				
	造 園 科		28	12	33	7	26	9			87	28	3				

2 目指す学校像

- (1) 創立 110 年を超える歴史と伝統を受け継ぎ、学科の特色を生かし、地域における教育の中核として「魅力ある学校」「信頼される学校」となる。
- (2) 生徒一人一人が個性を伸ばし、将来の夢を実現するための知識・技能を身に付け、自信と誇りを持てる学校となる。
- (3) あらゆる教育活動の場面で、一人一人が輝く活力ある学校となる。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	各学年・各教科の、年度初めの意識付けにより、家庭学習時間は増加傾向にある。また、全体指導（集会・LHR）と個別指導（面談）を組み合わせることで、生徒の学力や意欲、目的意識に応じた丁寧な指導を行っており、多くの生徒は家庭学習習慣を定着しつつあるが、なかなか改善が見られない生徒もいる。	学習習慣が確立しない生徒に向けてのさらに丁寧な指導が必要である。また、新学習指導要領の実施に向けた教育課程の研究を行っていかなければならない。それに合わせて、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業の工夫・研修もさらに進めていく必要がある。
進路指導	令和 2 年度入試において、大学進学者は 130 名で、延べ合格者数は 263 名であった。国公立大学現役合格者が 37 名となり、4 年連続 20	学年と教科との連携を図り、3 年間を見通した組織的な進路指導を進める。進路希望を実現させるために、計

別紙様式 1 (高)

	名を超えた。特に国公立大学の中・後期の合格者が8名となり、本校がめざす最後まであきらめずに受験に挑戦する雰囲気や体制づくりの成果である。今年度も上位校への合格者数を増やすとともに、AOや推薦に頼らない雰囲気や体制をつくりたい。就職試験では熱心に指導に取り組んだ結果、早い時期に内定が決まった。 【国公立大学現役合格者数】(卒業年度) H27 11名 H28 24名 H29 23名 H30 22名 R元 37名	画的な面談指導および充実した進路指導を展開する。さらに、進路希望に応じて個別指導も充実させ、より高い進路希望を実現させ、地域に信頼される進学校を目指す。 【目標】 国公立大学現役合格者 50名以上 難関私大合格 第一志望合格率、公務員試験合格率の向上 一般企業就職率100%
生徒指導	学校生活全般に落ち着きがみられ、服装などの容姿も概ね良好である。特別指導は少なくはないが、規範意識の醸成を図り、些細なことを疎かにしない指導により、問題行動の未然防止に努めている。	すべての教職員が継続して参加できる指導体制を構築するとともに、組織的な生徒指導で問題行動の未然防止に取り組む。
特別活動	運動部、文化部ともに活発な活動を行い、各種大会等において良い成績を収める部が増えてきている。昨年全国選抜高校野球大会出場を果たした野球部をはじめ、特にバドミントン部・ウェイトリフティング部・弓道部の国体や全国大会等で活躍することが出来た。 ホームルーム活動、ボランティア活動、収穫祭などを通して、学校、家庭及び地域とふれあい、将来の生き方を考えさせる機会が得られた。	各部活の部員を増加させ、さらに活発な活動状況を目指す。特に、運動部の部員増加と、文化部の活動発表の場を設けたい。また、生徒会の自主的活動が望まれる。 生徒の学校内外の活動を記録・蓄積し、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりするための教材等の活用の方法について、工夫する必要がある。
職員の勤務環境の整備	保護者や社会の様々なニーズに応えるため、職員は熱意や使命感をもって学習や部活動などの業務を担っているが、長時間勤務による疲労の蓄積や効率の低下を招くこともある。これまでも役割分担と業務の適正化、および職員の意識改革に取り組んできたが、すべての職員が授業準備や自己研鑽の時間を確保し意欲的に業務に取り組める環境の実現のために、さらなる業務内容や行事の見直しが必要である。	これまでも役割分担と業務の適正化、および職員の意識改革に取り組んできたが、限られた時間の中で、子供たちに効果的な教育活動を行えるようにするために、ICTの活用による効率化や係分担・行事等の見直しに加え、家庭や地域などと協働して子供たちを育む体制を整備する必要がある。

4 中期的目標

- (1) 進学に向けた組織的・計画的な指導を充実させ、生徒の学習意欲と大学進学実績の向上を目指す。
- (2) 授業の内容や方法を工夫・改善するとともに、生徒の主体的な学習習慣の定着と確実な学力の向上を目指す。
- (3) 生徒の規範意識を高める指導と心の教育を充実させ、自己指導力や互いを尊重する態度を育成し、人間性の向上を目指す。
- (4) 業務内容や係分担の見直し、および家庭・地域等との協働により、働き方改革を図る。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 学力の向上	(1) 授業時間数と授業時間の確保に努める。 (2) 授業方法を改善し、「主体的・対話的で深い学び」を推進する。 (3) 自学自習・家庭学習習慣の定着を図る。 (4) 「生活・学習プランニング力」の向上を図る。 (5) 総合的な探究の時間の展開を研究し、改善する。 (6) 特別支援教育を推進する。
2 進路希望の実現	(1) 組織的・計画的指導を推進し、志望校への合格を目指す。 (2) 個別面談を充実させ、進路希望を明確にする。 (3) 課外授業等の計画的実施と主体的な学習活動を促進する。 (4) キャリアデザイン力を育成し、生徒の意欲・能力を高める (5) 地域活動への参加を促し、社会的実践力を養成する
3 基本的生活習慣の確立と 規範意識の定着	(1) 生徒に社会性を意識させ、挨拶や身だしなみの指導に努める。 (2) いじめや体罰のない「安心・安全な学校づくり」に努める。 (3) 職員間の情報共有を図り、家庭や関係機関との協力・連携に努める。

別紙様式 1 (高)

4 特別活動の充実	(1) 生徒の企画・運営力を高め、主体的な活動を促進する。 (2) 学校行事での生徒の積極的な取組を促進する。 (3) 部活動の充実を図り、生徒の向上心や達成度を促進する。 (4) キャリア・パスポートを活用し、新たな学習や生活への意欲につなげたり将来の生き方を考えたりする活動を行う。
5 専門教育の充実と地域との連携	(1)幅広いニーズに応えられる魅力ある学習内容を検討する。 (2)プロジェクト学習を充実させ、大会入賞者や上級資格合格者を増やす。 (3)開放講座や収穫祭等を通して、地域と連携した専門教育を推進する。
6 外部への情報発信	(1) HPや新聞等のメディアを活用し、保護者や地域に積極的に情報発信する。 (2) 学校説明会や中学校訪問の実施により、中学生対象の広報活動を推進する。 (3) 地域に開かれた学校づくりを推進する。
7 持続可能な指導・運営体制の構築	(1) 教育計画や組織運営を見直し、勤務時間に関する意識改革と時間外勤務の抑制を推進する。 (2) 授業やその準備に集中できる時間、教師自らの専門性を高めるための研修の時間や、生徒と向き合うための時間を十分確保し、教師が日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性を高め、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるような環境を整備する。